

下関市立豊北小学校の児童が「森の学校」でシイタケの駒打ちを体験

令和7年1月23日（木）、下関市立豊北小学校の3年生23人がシイタケの駒打ち体験をしました。

これは、次代を担う児童たちに、森林の大切さや地域林業への理解を深めてもらうために、「豊北町林業研究会（会長：有田 孝義）」が行ったものです。

はじめに、会長によるあいさつがあり、会員が電気ドリルを使って原木に穴をあける作業を実演しました。児童たちは、ドリルの音と木くずが飛ぶ様に最初は驚きながらも興味津々に見入っていました。

次に、駒打ち作業の説明を受け、原木の穴にシイタケ菌（種駒）を木槌で打ち込みました。

児童たちは、一生懸命に打ち込み作業を行い、作業が終わった児童は作業中の児童を手伝うなどしていました。その後、原木1本1本に名前を書き、学校内の木陰まで運び、伏せ込み作業を行いました。

最後に、会員からシイタケのお話があり、児童たちは「いつできるのか」「どのくらいとれるのか」など質問していました。児童たちが5年生になった時に、たくさんのシイタケが収穫できることを楽しみにして森の学校を終えました。



会員による穴あけの実演



種駒の打ち込み作業